



Simposio internacional  
«Donación y trasplante de órganos,  
el potencial del modelo español»

国際シンポジウム

日本とスペインにおける臓器提供  
—スパニッシュモデルの可能性—



**DAY 1** 2022 **1/24** Mon  
18:00–20:00

**DAY 2** 2022 **1/25** Tue  
18:00–20:00

参加費：無料、要登録

オンライン・現地会場開催。いずれの場合も事前にご登録が必要です。

言語：スペイン語・日本語（同時通訳あり）

会場：インスティトゥ・セルバンテス東京  
〒102-0085 東京都千代田区六番町2-9  
<https://tokio.cervantes.es/>

主催：インスティトゥ・セルバンテス東京 早稲田大学先端社会科学研究所  
後援：一般社団法人 日本移植学会  
助成：公益財団法人 セコム科学技術振興財団  
協賛：日本スペイン協会

本シンポジウムはJSPS科研費JP21439385の助成を受けたものです。



公益財団法人  
セコム科学技術振興財団  
SECOM Science and Technology Foundation



<https://trasplante-spanish-model.peatix.com>

世界で最も臓器提供者の多い国、スペイン。人口100万人あたりの年間死体臓器提供者数は46.9人<sup>\*2017年</sup>に達し、その数は日本の約53倍に相当します。このスペインの取り組みは“スパニッシュモデル”と呼ばれ、国際的な課題である臓器提供数を飛躍的に増やす策として世界で注目されています。

スペインの臓器提供数の多さは、ひとつにはオプトアウト方式（臓器提供を拒否する本人の意向が認められない場合に臓器摘出を許容する）の法制度に起因するとされます。けれども、それ以上にスパニッシュモデルでは医療環境の整備、そして医師と患者・家族が綿密なコミュニケーションを行う体制が構築され、移植医療に対する不安や不信感が払拭されている点が、臓器提供数に大きく寄与しているのです。

本シンポジウムは、スペイン・日本において移植医療に第一線で携わる専門家を招き、スパニッシュモデルではどのような取り組みが具体的に行われているか、また日本においてどのような取り組みが必要かを、様々な分野の専門家が両国の現状を分析し、話し合う場をつくることを目的としています。

スペインと日本の専門家が専門分野の垣根を超え「臓器提供」というテーマの下に集う本邦初の試みです。



**DAY 1**  
2022 **1/24** Mon  
18:00-20:00

テーマ:

## スパニッシュモデルと日本の移植医療 —医療専門職の実務—

言語：スペイン語・日本語（同時通訳あり）

- 木庭愛（厚生労働省老健局難病対策課移植医療対策推進室 室長）  
開会のご挨拶
- スペイン国立臓器移植機関（ONT）長官ベアトリス・ドミンゲス＝ヒル博士  
※ONTはスペイン保健省の下で臓器提供・移植のコーディネートを担う公的機関
- TPM-DTI財団（臓器提供・移植研究所）所長マルティ・マンヤリック博士  
※同財団は臓器提供数増加の取り組みを行う非営利組織。財団が提供する教育プログラムはこれまで世界約100か国計10,000人以上の医療専門職者に受講されている。
- 江川裕人（東京女子医科大学 教授、日本移植学会理事長）  
「日本における移植医療の現状」（仮）
- ラウンドテーブル&質疑応答  
スパニッシュモデルと日本における関連する取り組み、今後のあり方等について医療専門職の視点からお話しいたします。

**DAY 2**  
2022 **1/25** Tue  
18:00-20:00

テーマ:

## スパニッシュモデルと日本の移植医療 —制度・国民意識—

言語：スペイン語・日本語（同時通訳あり）

- 甲斐克則（早稲田大学大学院法務研究科教授、早稲田大学理事）  
開会のご挨拶  
「本シンポジウムの開催意義—スペイン調査の経験から—」
- スペイン国立臓器移植機関（ONT）長官ベアトリス・ドミンゲス＝ヒル博士  
「臓器提供—スパニッシュモデル—（政策・家族の観点）」  
スパニッシュモデルの解説及び制度的側面や家族・国民の反応について
- 門田守人（日本臓器移植ネットワーク理事長、日本医学会長）  
「日本における臓器提供の現状と課題」（仮）  
スパニッシュモデルからの示唆を含め今後の望ましい方向性等について
- 瓜生原葉子（同志社大学商学部 准教授、日本臓器移植ネットワーク理事）  
「臓器提供への態度と意思表示行動に関する日本の現状について」
- ラウンドテーブル  
スパニッシュモデルと日本の移植医療への示唆、今後必要とされる取り組み等についてお話しいたします。  
ベアトリス・ドミンゲス＝ヒル博士／マルティ・マンヤリック博士／甲斐克則（法学）／門田守人（医学）／瓜生原葉子（経営学）／木下登（南山大学名誉教授、インスティテュート・セルバンテスアカデミックフォーラム“カテドラ”名誉顧問、公益財団法人日本スペイン協会 代表理事）

\*プログラムは都合により変更になる場合があります。予めご了承ください



### 【オフラインの会場】

インスティテュート・セルバンテス東京  
Instituto Cervantes de Tokio  
〒102-0085  
東京都千代田区六番町2-9 セルバンテスビル  
Tel: 03-5210-1800  
Fax: 03-5210-1811  
E-mail: infotok@cervantes.es  
URL: <https://tokio.cervantes.es/>

### 【オンラインでのご参加】

- オンラインアプリZoomを使用してシンポジウムをライブ配信いたします。
- 参加ご予約後、登録いただいたメールアドレスにオンラインセミナーの情報が自動配信されます。
- 当日行われた配信の録画は後日アーカイブとしてインスティテュート・セルバンテス東京のYouTubeサイトに一般公開を予定しています。